授業づくり実践レポート

　　　　　　　　　　　　　　座間市立ひばりが丘小学校　　坂本朝美

書くことの低学年の学習指導の目標は、経験したことや想像したことなどについて、順序を整理し、簡単な構成を考えて文や文章を書く能力を身につけさせるとともに、進んで書こうとする態度を育てることをねらっている。

一年の「書くこと」の領域は、１学期「わたしのなまえ」「かいてつたえよう」「えにっきをかこう」。２学期「としょかんへいこう」「いぬのきもち」「みのまわりのいきもの」「えをかいてみると？」「わたしのよんだ本」。３学期「きょだいなきょだいな」「できるようになったこと」である。

１学期の「わたしのなまえ」では、自分の名前を平仮名で表し、友だちと名刺交換をしながら楽しく話すことが学習目標であり、文章を初めて書くのは「かいてつたえよう」の単元である。学習目標は「楽しかったことや見つけたことを手紙に書いて、伝えたい人に伝える。」とあり、主な学習内容は、「誰に何を伝えるか決め、メモを取る。原稿用紙の使い方を知り、手紙を書く。推敲をする。」である。

そのため、「文」について知る機会がないので、発達段階を踏まえた書くことの段階的指導を取り入れた。文の終わりに句点「○」を打つことの理解や、「だれが」「どうする」が分かるような文の基本型の構成を考え、２時間指導計画に加えて指導していった。書くことに抵抗なく楽しみながら学習を進めていくことができた。

２学期の「いぬのきもち」では、学習指導要領の低学年の指導事項「B書くこと」の「ア経験したことや想像したことなどから書くことを決め、書こうとする題材に必要な事柄を集めること。」また、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」イ（ア）言葉には事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気づくこと。」を学習させてきた。１学期の「かいてつたえよう」の学習以来、書くことの２回目の学習である。７月には、楽しかったことや見つけたことを手紙に書いて、伝えたい人に伝える活動をしてきた。

この単元の目標は、「二匹の犬の気持ちや行動について、一枚の絵から想像したことをもとに、つながりのある簡単なお話を書くことができる。」である。物語を初めて書くので、低学年の書くことの目標である「はじめ」「なか」「おわり」の構成を大事にし、つながりを持たせて簡単なお話が書けるようにさせてきた。また、物語に必要な「いつ、どこで、だれが、どうした」についても触れ、意識して書けるように指導してきた。最後に絵本としてまとめ、グループで友だちの絵本を読み、交流していった。

○単元名　　　　　　　 かいて　つたえよう

（１)目標　　　　 　見たことを書くことができる。

 (２)展開（１/１４）

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 　学習活動の流れ | 　　　　　　　　 指導上の留意点 | 　　　　評　価 |
| ○本時のめあてを知る。 | ・これまでは単語を書いていたが、平仮名の学習が終わったので、一文節（主語＋述語）の文を書くことを知らせる。 | [関心・意欲]・見たことを進んで話したり、書いたりしようとしている。 [言語]・主語と述語から成る文が分かり、文の終わりに句点を打つことを理解している。 |
|  | みたことを　かいて　しらせよう。 |  |
| ○教室にあるものを文にして書　く。 ○先生の様子を見て文を書き、発表する。○「文」について知る。○次時の学習について知る。 | ・黒板の右端に（　　　が）（　　　ある。）のカードを張って意識させる。・１，２文は、みんなで一緒にノートに書き慣れさせ、自分で「～がある。」という文型を書かせる・主語は先生になり、述語が変わることを知らせる。 （せんせいが）（　　　　　　する。）・１，２文は、みんなで一緒にノートに書き慣れさせ、自分で「先生が～する。」という文型を書かせる。・主語と述語がから成るお話を「文」ということを押さえる。・「せんせい　あのね」の続きの文を書くことを知らせ、書くことに興味関心を持たせる。 |

○単元名　　　　いぬのきもち

（１) 目標

　　　二匹の犬の会話を想像してワークシートの吹き出しに書くことができる。

 (２)展開（２/８）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 過程 | 学　習　活　動 | 指導上の留意点 | 評価（観点・場面・方法） |
| はじめなかまとめ | ○前時の活動の振り返り・ボールがあるから、遊んでいるのかな。・えさのお皿があるから、ケンカになったのかな。・じゃれあっているからなかよしの犬なのかな。○本時の課題を確認する。二匹の犬が何と言っているか考えて書こう。○二匹の犬が何と言っているかを想像して、ワークシートの吹き出しに書く。○ペアで考えを発表する。・ボールで一緒に遊ぼうよ。いいよ。・ぼくのえさ食べたな。だっておなかが空いていたんだよ。○全体の前で発表する。○本時の活動を振り返り、次時の活動を知る。 | ・教科書の絵にどんなことが描いているのかを発表したことを振り返らせる。・前回、書いた気づきを黒板に貼る。・個々にワークシートに書かせる。・考えやすいように拡大した絵と挿絵を黒板に貼っておく。・いろいろな考えが思い浮かぶ児童には、新しいワークシートを渡し、書き込みをさせる。・発表させる際は、見る側がわかりやすいよう、お面をつけて発表させる。・それぞれの発表について、「けんか」や「なかよし」など考えたことをいくつかに分類して板書し、自分の考えと比べられるようにする。・次時から、自分たちで話を考えていくことを伝え、活動の見通しを持たせる。 | 〈手だて〉・考えが思い浮かばない児童には、前時に考えた、犬が何をしているかを振り返らせ、会話文が書けるよう支援する。【書く】ア・二匹の犬の会話を想像してワークシートの吹き出しに書くことができたか。（観察・発表・ワークシート） |

○「いぬのきもち」の成果と課題

・子どもたちは挿絵をもとに想像を膨らませていったので、授業の展開の中で、「はじめ」ペットや飼い主の紹介「なか」二匹の犬の様子「おわり」まとめ（家に帰る・喧嘩して仲直りなど）として一人ひとりが楽しみながら絵本作りをしていけた。

・推敲もさせていったが、１年生ではまだ難しく添削をして直させた。

・平仮名など文章の表記に不十分であったり、「はじめ」「なか」「おわり」として捉えることが難しかったりした児童がいた。

○体験をふまえた「書くこと」

これまで、楽しかったことや見つけたことなどを書いて、相手に伝える経験をしてきた。また、生活科なども関連させ、活動したことや発見したことに対して、絵日記や発見カードを書かせるようにしてきた。朝の会でのお知らせの時間には、遊んだことや自然について発見したことなど児童が主体的に発表する機会も作ってきている。

豊かな体験をすることで、書く意欲や豊富な表現がみられ、内容が相手に伝わりやすく思い出して書くことができる。そのため、大半の児童はスムーズに書き進めていくことができ、自分の思いを伝えようとする児童が多かった。しかし、なかには書きたい想いがあっても相手に分かるような文章の書き方が不十分なため、文章を読み取れない児童もいるので、添削や個別支援をしながら「書くこと」に抵抗がないよう配慮している。今後も体験活動で楽しみを十分味わわせ、自ずと話したい、書きたい想いを持たせていきたい。